

中京大学教養教育研究院 経験交流会

主催：中京大学教養教育研究院教務運営委員会

オンライン授業における工夫と課題

開催日時：2020年12月16日（水）16:40～18:10

開催場所：中京大学 名古屋キャンパス 412教室
（ウェブシステムにて同時開催）

パネリスト：① 千葉洋平 国際学部講師
② 三浦綾希子 教養教育研究院准教授
③ 原口友輝 教養教育研究院准教授

司 会：溝口優樹 教養教育研究院講師

司会（溝口）：

それでは定刻となりましたので、2020年度の経験交流会を開催します。司会を務めます溝口優樹と申します。どうぞよろしくお願い致します。

本年度は、「オンライン授業における工夫と課題」というテーマを設定しました。話し手は、国際学部の千葉（洋平）先生、教養教育研究院の三浦（綾希子）先生、同じく原口（友輝）先生にお願いしています。

まずは、教務運営委員長の永井（勇）先生からご挨拶をしていただきたいと思います。永井先生、よろしくお願い致します。

委員長（永井）：

ご紹介にあずかりました教務運営委員会委員長の永井です。安村（仁志）学長に開会の挨拶をお願いしていましたが、お忙しいということなので、教務運営委員会の頼りない委員長、私、永井が開会の挨拶をさせていただきます。

今年度、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、授業の方法が変更になったり、それを受けて計画の練り直し、準備のやり直しがあつて大変でした。今も大変な人が多いと思います。

そこで、今回、3人の人に、オンライン授業でいろいろな工夫をされたと思いますので、それに関して話していただいて、参加している先生たちの中で、これは自分の授業で生かせようというものがありましたら、どんどん使っていただければと思います。そういう思いがあつてこの会を開催したので、皆さんも工夫した点や見えそうだったことを盗んでいってください。

何かと、「コロナのせいで」と言いがちなところですが、それを、言い方は悪いかもしれませんが、「コロナのおかげでいろいろな工夫ができた。コロナのおかげでさらに授業が分かりやすくなった」というふうになればと思っています。

では、皆さん、よろしくお願い致します。

司会：

発表は、千葉先生、三浦先生、原口先生の順で行っていただきます。各位の先生方の発表のあと、最後にまとめて質疑応答の時間を設けたいと思います。それでは、千葉先生、準備が整いましたら、お願い致します。

千葉：

では、始めます。千葉です。前期にかけて、いろいろ試行錯誤した中で、失敗もたくさんしてきましたが、その中で、これは使えるのではないかというものを皆さんと、今日、共有していければなと思っています。

今回は三つの流れで話を進めます。まず準備の話、そして授業の進め方、そして評価の仕方です。評価の仕方は、原口先生、三浦先生からもお話があると思いますので、私は文書の添削についてお話しします。

今日は言語系のクラスに特化してお話しします。15人程度のライティングのクラス、そして資格系や、一年生の基礎の英語の30人程度のクラスの中で、私が試行錯誤した使えるスキルを皆さんと共有できたら、と思います。

私が前期に行ったのは、基本的に、リアルタイムとオンデマンドをミックスさせる形のものでした。ですので、全部オンデマンドではなく、時間どおりに集まってリアルタイムで少し授業を行うという形にしました。基本的にPCはMacで、Zoomを使用しましたが、Windowsはテキストの作成のときにだけ少し使用しました。

まず、テキスト作りです。オンラインで、リアルタイムでやるときに共有するものがないと、お互い、どこの部分を指しているのかが分からなくなってしまうので、私は、なるべくKeynote (PowerPoint) に落とし込むような形で、共有できるテキストを作成しました。

テキストは、一つ一つタイプをするとすごく時間がかかり、手も腰も肩も痛くなっていくと思うので、私はイメージをテキスト化するのが一番いいと思っています。大学で供給されているMicrosoft WordとAdobe Acrobatの二つがあれば、ある程度のテキストはイメージとして抜き取って、それをテキストにすることができます。

具体的に説明します。(写真やスキャナーで取り入れた) イメージファイルをWordに貼り付けて、そのファイルをPDFで保存してください。その上で今度はPDFをWordで開く。そうすると、勝手にWordが文字認識をしてくれます。このやり方は、英語であれば、認識の正確さでは一番高いと思います。私はスキャナからの文字認識も試しましたが、スキャナよりも多分こちらのやり方のほうが文字認識はいいと思います。

これで、わざわざ自分でタイプして文章を打ち込まなくても、このようにイメージをテキストにすることができます。もちろん、イメージのままにパワーポイントに貼り付けて、そこで説明してもいいですが、テキストの一部分を採り出して説明するときには、このやり方はとても便利です。

大学から供給されているアプリケーションで足りるので、誰でもできると思います。

次に、「(CHUKYO) MaNaBo」ですが、基本的に私が授業で使ったMaNaBoの教材は、三つあります。主にQuizを利用しました。Quizは、提出物系のものであれば、多分、最も使いやすいものになっていると思います。リーディングやリスニングの問題もできますし、ライティングも短めの文章であれば添削するようにすぐにデータとして採りやすくなっているので、Quizは結構お勧めです。スピーキングは、前期は使いづらかったですが、後期からちょっと改善されて、結構使いやすくなっています。スピーキングは、録音のときに音声を聞かせて、その聞こえた音声を録音させるということをやっています。

Boardですが、Boardは基本的に出席の管理と質問の窓口として使用しました。最後にReportに関しては、論文とライティング課題を提出するために使用しました。

Quizで使う問題の作り方は、一つ一つ打ち込みはしたくなかったので、私は先ほどのやり方で、まず文章をテキストにしてから、それをコピーしていきました。Quizを作る際に一つ一つ設定していくのも大変なので、一つの問題を作る際に設定を整えた後に、取りあえずその問題をコピーして行って、それから個々の問題文を修正していきました。

(スライドを通して) 具体的に見ていきます。このようにテキスト化したものをクイズで使うときに、単一選択の問題なので、設定を整えた1つの問題を選択してまずはコピーします。その上で1つの画面に2つのウィンドウを並べ、コピー・ペイストをやって問題をつくっていきました。

(繰り返します) このように1つの問題のセッティングが終わったら、取りあえず同じ問題をコピーしていきました。そうすると、問題文と正解の部分は変える必要がありますが、変更したくない設定は残しておけます。

問題集としても使いたかったので、一つにはタグを付けるということと、あとは難易度を調整するというを行いました。こうすることによって、あとで問題集を作るときに、問題がとても採しやすくなりました。

コピーをしたら、一つずつ問題の「修正」という所を押して、またテキスト化した問題文のコピー・ペイストを続けていきます。このようにして、問題作成が簡単になるように工夫しました。

複数選択肢の穴埋め問題はよく英語であると思います。本文中空欄「1」はこれ、「2」はこれと選ぶ問題です。「たくさんある中から一つずつ選んでください」という問題の場合は、左側は「1」、「2」、「3」、「4」、「5」と数字をふり、左側は固定しました。右側には選択肢を自分で打っていきます。基本的に、右側の選ぶ部分はランダムになるので、あとは学生が右側の選択肢から選ぶだけという形になっていきます。

また単語で答えさせる穴埋めの問題に関しては、自動では採点がちょっと難しかったの

で、私がやったのは、ここにあるように、基本的に採点は「柔軟」を選択し、キーワードをいくつか決めて、このキーワードが答案に記入されていれば、一応得点を付ける形にしました。もちろん、これは正確な自動採点が行われる確率としては結構低いので、あとで、私が直接見直をして、自分で「○×」というのを変えていきました。(表示画面の)右側がそうですが、このように一つずつ見直して、添削をしました。

短い文章でしたら、Reportやほかのツールよりも、私は(MaNaBoの)Quizを使いました。Quizのいいところは、「学生の回答ダウンロード」というものがありますので、このようにExcelのような形式で、一括で文章が出てきます。ですので、例えば、前回の授業からの文章の解説をするときに、学生の文章をわざわざ1個ずつ選んでコピペをしたり、自分で打つ必要はないので、Quizから答案を出力をすれば、文章の扱いがすごく簡単になりました。ですので、Quizを利用した文章問題はすごくお勧めです。

解説用のオンデマンドの教材も作成しました。リーディングのレベルは、学習者によってそれぞれ変わってきますので、それぞれのペースに合わせてできるように、長めの文章のリーディングの解説はオンデマンドという形で作成しました。

私はMacバージョンのパワーポイント、「キーノート (Keynote)」を使いましたが、まずスライドを準備して、その上に声と字を入れていきます。私は本発表の始まりから、ご覧いただいている画面にあるように画面上に文字を書き入れています。こういう形でオンデマンド教材を作る際も文字と声を合わせて入れていきました。このような教材作成のために便利だったのがiPadのアプリで、「Explain Everything」、「Explain EDU」というのがあります。1,720円払えばずっと使えるので私は、前期はこれを利用しました。

どういうものかという、(映像で示した)ここを見てもらえれば分かりますが、上の緑色の部分が字の部分になっています。こっちの紫色の部分が声になっています。要は、声を入れながら文字を入れられるというような、リアルタイム感が出るアプリになっているので、これでオンデマンドの説明の教材を作成しました。最初、慣れるまでちょっと時間がかかりましたが、慣れたら結構簡単に使いこなせると思います。

次にZoomですが、私はこれに結構四苦八苦したので、皆さんと悩みや工夫を共有できればと思います。最初、私はZoomに設定があることを全然知らなかったもので、例えば、どうやってブレイクアウトルームを作るのか分かりませんでした。

皆さんはもうご存じかと思いますが、Webサイトにログインすると左側に「設定」というものがあります。その中から、特に「オン」にしたものをプレゼンテーションのスライドにリストアップして置いています。ちょっと長いリストなので(例えば、チャット、ファイル送信、共同ホスト、投票、ブレイクアウトルーム)、どれが大切かというのは、それぞれ先生方によって変わってくると思いますが、Zoomの設定で、自分たちが使えるツールを増やしておくというのが、私はすごく助かりました。

次に、授業の進め方についてです。先ほど言ったように、私は基本的に、リアルタイムとオンデマンドを併せて使いました。工夫としては、まず、リアルタイム、そしてオンデマンドと、交互にやらなければいけなかったもので、私は今日一日の授業の流れを、このよ

うにMaNaBoに学生に対して大まかに書いておきました。前期の最初のほうでこれを書かなかったときがあって、何をやればいいのか分からなかった学生がかなりいたようで、学生から指示がわからないという指摘があってからは、授業日にやることの流れを、なるべく事前に書きました。

そして、授業の進め方です。先ほど私は、Boardを使うと言いましたが、Boardの利点は、まず、出席が分かるということです。Zoomですと、誰が出席しているかというのは分からないので、私は一応、来たらBoardに名前を書いてもらいます。そうすると、発言をした人は、MaNaBoで、誰が来たのかというものがこのように表示されていきます。クラスの名簿も、同じ名前のリストの順でリストアップされていくので、ちょっと確かめやすいというか、誰が来ているのかというのを、すぐに見ることができます。

確認して、居ない人、例えば、23番の人は居ますが、居なかったとしたら、この人だけ抜いた名前のリストを、その授業で発表者を決めるときに利用します。欠席者がわかりやすいので、これが学生の出席を一番管理しやすかったやり方だと思っています。

次ですが、進行は基本的にMacのKeynoteのスライドを基にしました。私が今、ここで画面を通して皆さんに見せているように、授業ではPCとiPadを使っています。iPadとZoomで画面共有できるスライドを連動させなくてはいけません、まず、一つ工夫があります。最近、Keynoteがアップグレードされて、ツールバーの「再生」をクリックすると「スライドショーをウインドーで再生」という項目が出るようになりました。

これをクリックすると、全画面がスライドショーになるのではなくて、一部だけのウインドーでスライドショーができることになりました。そうすることによって、ほかのウインドーも同じ画面に置いておくことができるようになりました。ですので、発表している私は、スライドについてはちょっと小さいウインドーで十分ですので、Zoomで共有するスライドを自分の画面では小さくしつつ授業を進めてきました。

そして、「スライドショーをウインドーで再生」をしたあとに、iPadでKeynoteを開くと、右上部分に「再生」というボタンがあります。iPadを持っている人は見てほしいのですが「Keynote Remote」を押すと「再生」というのが出てきますので、もし同じインターネット回線を使っている場合は、Zoomで使用しているPCとiPadを同期することができます。なので、私が字を書くときはiPadに書いていますが、基本的には、PCのKeynoteにiPadを同期させて、iPadに字を書いている形になっています。ですので、私が授業をやる時には、iPadのスライドに書いた文字を、Zoomを通して共有することができます。

注意しなければいけないのは、「スライドショーをウインドーで再生」してからiPadの緑の「再生」アイコンを押すことです。順番を間違えると全画面になってしまうので、気を付けてください。

オンラインでの授業では基本的に2画面用意して、1画面は学生への共有用にしています。私は、普段は「Google Meet」を使っていないので、今日、初めて画面共有を使いましたが、ちょっと使い方が分かりません。MeetだとZoomほど柔軟に画面共有ができないかもしれません。

Zoomの場合だと、2画面中1画面全体を共有することができます。私はこれを結構重宝していて、なぜかという、スライドだけではなくて、ほかのウィンドーやアプリも1つの画面に置けるようになってからで、2画面を使用して、そのうち1画面は共有画面にしています。こっちのほうがすごく教材提示がやりやすくなります。もう片方の画面は、自分が見たいものを出しておきます。

以上のようにこれまで授業運営を試行錯誤して進めてきましたが、やはり問題点があります。インターネットの一番の問題は、学生の進行状況や、答えや指示が伝わっているかどうかということが分からないことです。皆さんもご存じのように、クラスルームだとこれがすぐにできるにもかかわらず、ネットですと、理解度や進行状況が分からなくなるという問題点があります。

そして、MaNaBoの設定のときですが、やはり、インターネットの世界なので、私も答えを誤って選択しているときがありますし、確認するのに時間がかかることが難点です。

そして、やはり、言語教育にとって致命的ですが、会話のアクティビティーが、私はまだうまくできていないのが現状です。確かに、ブレイクアウトルームを使って、学生の組み合わせをして、「これを読んでください」というようなアクティビティーはできますが、やはり柔軟性がないというか、あまり深いことができない、学生が自分で応用してみようということがネットではあまりできないので、今、ここはすごく悩んでいます。

特に、学生のネット環境にも左右されやすいので、例えば、場合によって、今は顔を出せないとか声を出せないとかいう学生も居るので、会話のアクティビティーができにくい状態ではあります。

最後に評価の仕方です。私は文章添削について話をさせてください。そこまで人数の多いクラスではありませんが、基本的に、私はMaNaBoでファイルを出してもらって、一括でダウンロードしていきます。これはやり方によりますが、一つのPDFにまとめます。Macだとこれができなくて、これはWindowsですが、論文添削の資料をまとめる際にはWindowsを使います。

Windowsだと、「ファイルをAcrobatで結合」と出てきますが、Acrobatとの互換性がMacは少し悪いので、多分、こういう気の利いたことはまだできないと思います。

PDFにまとめてiCloudで保存すれば、WindowsでiCloudに保存したとしても、iPadですぐに開くことができますので、WindowsでPDFをまとめて、iCloudに保存をして、私は、そのiCloudのファイルを、iPadで開きapple pencilで添削するようにしています。

これがちょっと悩みどころですが、その添削したものを、学生に返却するために一括でもう1回アップロードするのであれば、ばらばらのファイルのほうがいいので、ばらばらそのままにするときもあります。そのときには、PDFで提出してもらったほうがやりやすいです。だから、学生には、「お願いだからPDFにして」というような指導はします。

私は基本的に、添削では正しい答えを書くわけではなく、色を変えて、直す所を学生に考えてもらいます。赤色の所は文法的な誤りで、青色は、文法的には間違いではないけれども意味が通らないところです。緑色は、言いたいことは分かるけれど、こういう言い方

はあまりしない、別の言い方があるというときに使います。紫色は、英語とは関係なく、論理的でないときに着けています。これが添削の大体の流れです。

一応、普段であれば、レポートを回収して、それにそのまま添削するという工程ができますが、インターネットだとそれができないので、先ほど述べたiPadなどを使う代用の仕方で行いました。

最後に、後期にやっている授業方法は対面とオンライン併用です。一部の学生のオンラインの「リアルタイムでお願いします」というニーズに応えるために、いろいろ試行錯誤してやっています。基本的に、先ほど言った2画面の設定の1画面は、プロジェクターで映した画面を共有する形になっています。なので、対面の学生はプロジェクターの画面を見えていますし、オンラインの学生もプロジェクターの画面が共有される形になっています。

ただ、これでちょっと問題なのが、HDMIケーブルを使用するとリスニングが大変なことです。授業は、HDMIを利用しプロジェクターで画面を映すかたちでやっていて、プロジェクターの画像は共有画面で、クラスルームに居る学生も見ることができます。教室では普段どおり授業をしています。ちょっと問題があって、このコンピューター音声を共有にしないと、クラスルームで流している音声を、ネットを通してリスニングさせるのはさすがに結構難しいです。

オンラインの学生からリスニングの際に、「聞こえない」というクレームがあったので、Zoomのマイクのアイコンをクリックすると出てくる「コンピューターの音声を共有」を押すと、一応、音声は聞こえますが、今度はクラスルームに居る学生が聞こえなくなります。なぜかという、HDMIケーブルだと、音声を調節する調整ができないので、基本的に、すごく小さい音になります。

どうにかならないかと思って、私の解決策は本当に力技ですが、PCにはRGBケーブル、要は、イヤホンとつないでいる所にケーブルをそのまま差して流すしかありません。それでも、教室によっては小さい音の所もあるので、これが100%できるわけではありませんが、言語をやっているときに、このミックス型のリアルタイムだと、リスニングはちょっと問題だと思います。以上で報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。

司会：

千葉先生、ありがとうございました。それでは、続きまして、三浦先生、発表をお願いします。

三浦：

よろしくお願いします。聞こえますか。画面共有されているでしょうか。私もグーグルミートでの画面共有が初めてなので、ちょっと心もとないですが、よろしくお願いします。25分という持ち時間だったと思いますので、大体25分で終わるようにしたいと思います。まず、今日話す内容ですが、ざっくり、この五点について話せればと思います。初めに、

今回、こういう形で話しますが、私も試行錯誤の真っ最中で、どうしたらいいか分からない部分もあります。意見交換のための一つの事例として扱ってもらえたらと思います。スライドの途中に、「こういうとき、どうしたらいいですか」みたいなお尋ねもありますので、分かる先生がもしおられたら、教えていただけると幸いです。

冒頭に、永井先生が、「今回の意見交流会の事例を盗んで」みたいな話をされていましたが、私も、たくさんの先生のアイデアを盗んでいます。特に、2020年になってから、千葉先生主催で、春と秋の2回、授業に関する意見交換会をオンラインでしていただいて、そこでいろんな意見をいただいたりアイデアをいただいたりでばくらせてもらった部分もありますし、先生方のアイデアによってできていると思っています。

一人で授業をつくるのは、やっぱり大変なので、それぞれの授業の特性みたいなものもあると思いますが、こういう経験交流会とか、いろんな先生方の実践を聞いたり、それをまねたりすることはすごく大事だと、今年度はつくづく思っています。

今回話すのは、「大学講義オンデマンド型授業」になります。「教育学A」、「教育学B」です。豊田（キャンパス）が1クラスで大体70人ぐらいですが、八事（名古屋キャンパス）は130人から220人で、オンラインになって、秋学期は特に多いという印象を持っています。正直に言えば、教育効果は対面のほうが高いと思っていますので、対面でやりたいところですが、やはり、220人対面というのはちょっと難しいので、オンデマンドで何とかやっています。

最初に教材についてです。「教育学A」の春学期に関しては、前半は解説文付きPDFをMaNaBoで配布していました。これは、パワーポイントのノートの所に解説文を入れて、それをPDFにして配布する形です。先ほど、千葉先生が、「テキストを作るのは打ち込みもすごく大変」という話をされていましたが、これも打ち込むのがめちゃくちゃ大変で、私は手も肩も腰もすごく痛いです。ただ、打ち込みでやって、今もやっていますが、大体丸一日かかり、作業としてはこれが一番しんどいと思います。

後半は、あとからも言いますが、学生にアンケートを採り、解説文付きPDFのままでもいいという学生が多かったことは多かったです。中には、音声をつけてほしいという要望もあったので、春学期の後半からは、解説文付きPDFに加えて、音声を入れたパワーポイントを配布していました。

春学期が終わって、FDアンケートとは別に、授業の感想を毎回取っています。そこを見ると、解説文と音声付きでいいという意見もあったんですが、やはり、「動画にしてほしい」、「アニメーションとかが付いているほうがいい」という意見もあったので、後期からは3種類用意しています。解説文付きPDFと、音声付きのパワーポイントと、動画です。

動画は、音声付きパワーポイントをMP4にエクスポートしてアップロードしています。音声付きパワーポイントを残している理由としては、「教育学A」のときに、スライドの枚数が多くて、全部印刷していると大変だという意見があって、自分で6分割とか4分割とかして印刷してもらうように、パワーポイントをそのままMaNaBoに出しています。あとは、スライドの文字が小さいという意見もあったので、そういう子向けに、パワーポ

イントの資料であれば大きくもできるので、「これを使ってください」ということで、いろんな要望に応えた結果、三つアップして、「好きなものを使ってください」という形式になりました。

授業資料に加えて、参考資料は、新聞記事とか漫画とかもスキャンして、適宜配布したりもします。教材は、授業の1日前の授業開始時間にアップするようにしています。これも学生からの要望でした。

先ほどちょっと話しましたが、「教育学A」、「教育学B」共に、授業の途中でアンケートを採っています。これも、私のアイデアというより、実は太田先生からばくらせてもらったアイデアです。学生がどういう要望を持っているかというのは、オンラインだとおさら分からないので、授業途中、半分になりそうなところでアンケートを採りました。聞いた項目は大体こんな感じです。これを踏まえて、「教育学A」では少し教材を変えました。

アンケートのほかに、最後の授業、第15回のために、成績に関係なく、感想を書くようお願いをしています。これは対面のときもやっていたので、オンラインだからというわけではありません。

学生に対するアンケートの結果ですが、「教育学A」で採ったときは、半分ぐらいの人が、解説文付き資料が分かりやすいという話でしたが、一応、「教育学A」も解説文付き資料だったので、「このままでいい」という意見が7割ぐらいでしたが、3割はそうではないというのをどう考えるかと思って、やはり、その3割に対応しないといけないと思って、後半は音声付き資料を入れたということです。

「教育学B」では最初から3種類アップしています。どんな資料を使っているか聞くと、圧倒的に解説文付きPDFが多いですが、組み合わせている学生も結構居ることが分かりました。

教材作成で工夫していることです。これも、別にオンラインだからということではありません。あとからも話しますが、課題として、学生に自分の意見とかを書いてもらうことが多いですが、その課題のうち幾つかをピックアップして、資料に入れて、ほかの受講者の意見ということで全体に共有しています。最初のイントラダクションのときに、そういうことをすることは伝えてあるので、「コメントは誰かに読まれるかもしれないという前提で書くように」と言ってあります。もちろん、匿名で紹介します。

あとでも言いますが、オンデマンドだと、学生同士の学び合いが非常に難しいので、今のところ、ほかの人が何を考えたかということぐらいが限界だと思っていますが、もうちょっと何かできないかと考えています。

あとは、写真、イラスト、図をより効果的に使うことです。特に複雑な概念を説明するときは、対面のときよりもイラスト等を使って、なるべくイメージができるようにしています。対面だと、より詳しく具体例を出すとか、学生の表情を見ながら説明を変えとかいうこともできますが、そういうことがなかなか難しいので、あらかじめイメージしやすいような工夫をしています。

あとは、細かいまとめみたいな、重要ポイントを確認するためのスライドを、適宜入れ

ていたりもしますし、雑学クイズみたいなものも入れながら、一息つけるような工夫もしています。

ただ、難しさとしては、まず、パワーポイントの解説文をノートの所に作って、それを読み上げる形で音声入力をしてしていますが、そうすると、早口になりがちなのと、ライブ感がないというか、ただ読み上げている感じになって、対面では、「ここ、重要だよ」とか、「もう1回言うよ」みたいなことを言えますが、そういったライブ感がなかなかありません。入れることも可能だとは思いますが、どうしようかと思っているところです。

あとは、学生が本当に重要ポイントを理解しているかです。小テストはしていますが、本当に大丈夫かなというのが、依然として不安です。

教材に関して、学生からいろいろと要望もあります。これをご存じの人が居れば教えてほしいのですが、動画の速度調整ができません。モーションを使ってもできなかったのも、Googleのクラウドに上げればいいのかもかもしれませんが、MaNaBo上でできる方法を知っている人が居れば、教えてほしいと思います。

あと、穴埋めにしてほしいという意見も出ていて、私は、対面のときは穴埋めでやりましたが、穴埋めにする場合、多分、解説の動画を作って、資料は空欄があるやつにしてというパターンになると思いますが、容量の関係で動画を見られない学生がたくさん居る中で、500人ぐらいの学生全員がその環境を用意できるかということと、学習環境の差が生じるのはどうかというのがあるので、いいアイデアがないかと思っているところです。

続いて、課題ですが、三つ出しています。課題は毎回出していて、スライドがおかしいですが、毎回の課題が20%です。これは、記述問題をMaNaBoのレポートで提出してもらっています。

春学期、学生が、「課題が多くて大変」ということをすごく言っていたので、字数はなるべく少なく、300字から400字ぐらいにしていますが、みんな、結構頑張ってるみたいです。すごく頑張ってくるというのが、オンラインになってみて感じるところです。提出期間は大体1週間、次の授業の開始時間までとしています。

小テストを3回、授業5回分ずつを確認する形でクイズを使用しています。最後の期末レポートは、対面のときも同じでしたが、教育学に関わる新聞記事を読んで、自分の意見をまとめるということをしてもらっています。

オンデマンド授業で、課題の出し方として特に気を付けているのは、指示を明確にすることです。ゼミの学生に聞いたこともあります、「先生方も大変だろうけど、何をしていたか分からない授業もある」とか、「課題が明確でないと、何をしていたか分からないからすごく困ります」みたいなことを聞かされました。

対面だったら、より詳しく質問に来て、説明するとか、分かっていないとなったら、もう1回説明するとかできますが、オンデマンドなので、指示はかなり明確にするように気を付けています。最初の頃にあったのは、記述問題が2問あって、2問とも書いてほしいときに、「字数300字」と書いてあって、1問300字なのか、二つ合わせて300字なのか分

からないみたいなこともあったので、そこら辺を明確にしなければいけないということに、あらためて気付かされました。

毎回の課題に関しては、自分の意見をまとめてもらうことは毎回しています。あとは、授業の重要な点で、「変化を説明しなさい」とか、こういう論述問題的なものをやってもらうこともあります。それも、大体3問ぐらい用意して、「そこから2問、選んでください」という形か、「二つとも答えてください」という形で答えてもらうようにしています。

自分の意見をまとめる系の課題については、映像、参考資料、漫画、新聞記事等を読んで考えてもらっています。映像資料は対面のときから使っていましたが、オンラインになって初めは、著作権の問題とかもあるので、何をどう使っているか、最初はすごく試行錯誤しました。ただ、これは風間先生に教えてもらいましたが、TBSとかNHKとかが、自分のアカウントでアップしている動画があって、そういう配信動画は10分から15分ぐらいのものが結構多いので、それを使用するようにしています。

ただ、対面授業よりは映像が短めになりますし、みんなが見ているとは思えないので、みんなが見るように、「映像を見て、自分の意見を書きなさい」とは言っていますが、見なくても書けるようなものは、見ないで書いている子も居るだろうとは思っています。

あとは、毎回、冒頭にはほかの受講生のコメントを幾つか紹介していますが、それに対するコメントとか、授業全体の感想も、あれば書いてもらうようにしています。これは対面のときもやっていたので、オンラインだからということはありません。あとは、課題は、なるべく学生に身近な問題から出すようにしています。

学生から、答えやすかった、考えやすかったという声が特に多かったのは、「高等教育の授業のときに、皆さんが中京大学の学長だったら、2021年春学期の授業はどうしますか」というのを、考えてもらったりしました。これは考えやすかったみたいです。結果として、ハイブリッドが一番多くて、学生の正直なところも聞けたので、私としても見ていて面白かったと思います。

小テストは3回、制限時間は30分で、穴埋め6問、記述1問、選択1問でやっています。最近よく分かりましたが、選択問題が一番理解度を測りやすいです。1問ぐらい引っ掛けを入れておくと、見事に引っ掛かってくれたりします。穴埋めとか記述は、ここは重要そうだと、スライドを見て、考えずにぱぱっと入れている子が多いかもしれませんが、選択問題はよく読まない、実は理解していないとできない部分があるので、もうちょっと選択問題を増やそうかと思っています。

記述問題は、資料からのコピペと、あと、インターネットからコピペが多いという感じがしていて、今後、これをどうしようか考え物です。

あとは、最近はなくなりましたが、「時間切れで提出できませんでした」という問い合わせとか、「オンラインのトラブルです」とかいうことで、メールがめっちゃめっちゃ来ます。その場合は、どうしてもしょうがない状況の場合は、小テストの答えをメールで提出させることもあります。

期末レポートですが、私は対面のときから、30分ぐらい時間を取って、レポートの書

き方のレクチャーを、なるべく丁寧にやるようにしていました。「小学校で習ったよね」みたいなこともできない学生が本当に結構居て、最初の1升は空けるとか、「ですます調」で書かないとか、そういうところからやっていますが、今回はできないので、対面でやっていたときの資料を添付してやりましたが、もともとのレポートの能力のスキルに依存するところがあって、対面でやる時よりも質のばらつきがあったので、今回は、レポートの書き方を動画で解説して、もうちょっと質を担保できればと思っています。評価項目は八点あって、あらかじめ伝えておきます。

多分、レポートに関してはたくさん質問が来ると想定して、第15回の授業時間にZoomを開いて、「90分の間に質問しにきてください」というようなことをしました。これは「教育学B」でもやろうと思いますが、3、4人来るかなという感じです。

課題に対するアンケートは、「ちょうどいい」という意見が多いと思います。負担をなるべく少なくしようということで、最低限の確認ということでやっています。

課題に関する学生からの要望として、「自分のコメントをあとで見たい」というのがあります。これは、ボードとかならいけるのかもしれませんが、レポートでは難しいような気がしています。あとは、「ユーチューブの動画を見られて刺激になる」というコメントもあるので、声だけ、資料だけより、映像の力は大きいとあらためて感じています。

学生への対応ですが、疑問を出してくれる子が結構多いので、次の授業の冒頭で前回の復習をする中で、感想・疑問は答えるようにしていますが、どういう意図の質問だろうか、どういう意味で聞いているのだろうかみたいな質問もあるので、全ての回答はちょっと難しいというのが正直なところです。

また、先ほども言いましたが、メールがめちゃくちゃ多いです。一番多いのが、「課題の提出期限が過ぎたんですけど、すみません、提出します」とかです。私はそれを受け取らないようにはしていますが、懲りずに、メールは結構来ますし、あと、テストに関わるメールもめっちゃ来ます。これは私が悪いのですが、資料の解説文に「2019年」と書きたかったのが、「2119年」になっていて、「これは2019年でいいですか」と、そんなのも来たり、メールがすごく大変というのが正直なところです。

後期は、資料を見ずに取りあえず課題をやっている学生が多いような気もしていて、ここを何か対策できないかと考えています。

評価についてです。毎回の課題については、本当はそのときにちゃんとやっておけばいいのですが、教材を作るのにいっぱいいっぱい、毎回の課題の評価を期末にまとめてやることになっています。ざっとは見ますが、点数の入力まではできていないので、期末にやります。

小テストはクイズでやりますが、選択問題以外は全部チェックしておかないと、穴埋めとかでも、全角、半角で「×」になったりとか、いろいろトラブルがあるので、全受講生の解答を全部確認しているところです。文章問題は、キーワードを入れて採点しています。期末も、これはWordで提出してもらうのですが、対面のときと同じように、8項目から採点しているという感じです。

今後改善すべき点、検討事項ですが、たくさんあります。どうしようという点のほうが多いです。改善が一番必要なというのは、音声、動画が、やはり解説文を作るだけで結構大変なのですが、もう少しライブ感を出したほうがいいのかというのと、私の顔出しは必要なのかというのも悩みどころです。「別に要らないです」みたいなことをゼミ生とかは言ったりするので、要らないのかなとも思っています。

あとは、穴埋め方式です。確かに、穴埋め方式のほうが学生がやる気になるかなと思うので、ここは少し検討しつつ、学生のネット環境しだいとします。課題は、内容を本当に理解しているのかが少し不安です。

学び合いの機会は、オンデマンド講義だと対面でもなかなか難しいですが、ほかの人のコメントを見る以外に何かないかなと考えているのと、レポートの質のばらつきが非常に気になります。これから期末レポートを出すので、注意点の説明をなるべく丁寧にしようと思っています。

私の発表は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

司会：

三浦先生、ご発表、ありがとうございました。それでは、続いて、原口（友輝）先生、ご発表をお願いします。

原口：

原口です。よろしくお願いします。ミーティング (Google Meet) は初めてなので、私もちょっと共有の仕方が分からないのですが、出ました。はい、よろしくお願いします。私のほうも試行錯誤で、個人的な話ですが、私はまだスマートフォンを持ってなくて、アナログのガラケーで通っています。そんな私が、いきなりオンライン授業ということになり、びっくりして、どうしようと最初はかなり戸惑いました。

ただ、知り合いの先生に教えてもらったり、先ほどありました、千葉（洋平）先生の勉強会などがかなり役に立ちまして、私なりの工夫をやったのを、今日、紹介できればと思います。

こんな形でスライドを提示しながらやっていきます。私の授業の規模としては、道德教育の理論と実践は7クラスありまして、マックスでも65人が2クラスで、少ない所だと15人のクラスでした。

そして、三年生対象の教職科目ですので、恐らく、先生方とはだいぶ授業の雰囲気が違うのではないかなと思います。はっきり言って、三年生でまじめな学生が多くて、場合によっては、私のほうが多少厳しくして、「付いてこないなら、それはそれで構わない」みたいな態度を取ることができるような授業です。その意味では、授業はかなりやりやすいです。

私は、リアルタイムとオンデマンドを併用しました。大体60分を目指してリアルタイムの授業を毎週やっていましたが、延びてしまって80分ぐらいになってしまうときもあ

りました。できるだけ70分で収めたいと思っていました。Zoomを使用しましたが、それ以外の内容はオンデマンドで課題にし、恐らく、60分から120分ぐらいは作業に必要だったのではないかと思います。その他、読書課題レポートとか、確認テスト、最終レポート等を課題として出しました。

少し話は変わりますが、先生方にここで問題です。全員に答えてほしいです。「学生が9割間違える問題シリーズ」というもので、道徳教育の理論と実践で毎年やっています。せっかくですので、学生になって間違えていただきたいです。今から問題を言います。対面の人はもう配ってありますが、四択で選んでもらって、選んだ選択肢のときに立ってもらいます。対面は少し人数が少ないですが。オンラインの人は「挙手ボタン」というのがあると思いますので、選んだ選択肢で挙手ボタンで挙手をしてもらいます。なぜ挙手ボタンなのかというのは、またあとでお伝えします。

問題を言います。教養の問題で、教育の先生も居ますが、あくまで学生として張り切って間違えてもらったほうが、私はうれしいので、そんな感じでお願ひします。

問題です。日本の近代的な学校教育制度は、1872年（明治5年）に文部省が定めた学制というものに始まりました。このとき政府は「学事奨励に関する被仰出書」というものを出して、学制の精神を説き示しました。学制の最初に付いていた文章ですので「学制序文」と言います。この辺の細かいことはいいです。

考えてもらいたいのは、そこに示されていた教育の目的、何のために学校教育制度をこれから推進していったって、一般の人が教育を受けるのかということ、何で教育を受けることになっているのかを、（文部省が）どう考えていたのかを考えてください。

以下から一つ選んでください。「1. 天皇中心の国家に尽くすための教育」、そのために教育をやるんだということ、これを「国家主義」としておきます。「2. 産業を興し、軍隊を強くするための教育」、これを「富国強兵」としておきますけど、そのために教育をやる。「3. 親や目上の人を敬い、従うための教育」、それが大事だから教育をやるので、「家族主義」としておきます。「4. 個々人の能力を高めるために教育をやる」、「個人主義」ということにしておきます。

20秒ぐらい考える時間を取ります。理由までは書かなくていいです。本来、学生には書かせませんが、選択肢だけ選んでもらって、対面の人は起立をお願いします。オンラインの人は、私が「1です」とか「2です」と言いますので、そのときに挙手ボタンを押してください。

いいですか。では、解答を聞きます。まず、日本の近代的な学校教育制度は、何で学校教育を充実させるのか。「1. 天皇中心の国家に尽くすための教育」、「国家主義」を選んだ人、挙手をお願いします。挙手機能で挙手をお願いします。対面の人は立ってください。1番の「国家主義」、対面は7人中4人です。対面の人はもう大丈夫です。オンラインだと何人が挙手をしているか。今のところ4名ですね。はい、分かりました。では、挙手を下ろしてください。

では、次、「2. 産業を興し、軍隊を強くするための教育」、「富国強兵」を選んだ人。対

面だと2人で、オンラインだと8人、合わせて10人。

「3. 親や目上の人を敬い、従うための教育」、「家族主義」を選んだ人。どうでしょうか。4人です。はい、ありがとうございます。では、挙手を下ろしてください。

「4. 個々人の能力を高めるために教育をやる」、「個人主義」を選んだ人。オンラインで5人で、対面で1人で、6人ですか。はい、ありがとうございました。

さすが先生方、よくご存じだなと思います。学生は、やはり1番、2番が一番多くて、3番も時々居て、4番も時々居るという感じです。答えはあれなんですけど、実際の授業で、今回はもちろんありませんけど、私が「MaNaBoの4-1」に資料をもう用意しておいて、どういうふうな感じになっているのかというのを読んでいきます。今は全部は読みません。

ご存じの人はもちろん居ましたが、ここです。学校を何でやるのかというか、「教育がなぜ大事なのか」と書いてありますが、「学問は身を立てるための財本とも言うべきものとして」と書いてあります。「学問は身を立てるための財産、資本なのだ。だから学問をやるんだ、だから勉強するんだ」ということです。

こちらのほうに、「ややもすれば、国家のためにすと唱へ、身を立つるの基たるを知らずして」とありますけど、「国家のためじゃないんだ」と書いてあります。ですので、「国家主義」ではありません、国のためではありません。先ほどの選択肢で、産業の話は書かれていますけど、国を強くするとか国を豊かにするためにやるという「富国強兵」の話も書かれていません。また、親とか目上の人を敬うためとも書かれていません。

というわけで、答えとしては4番、「個人主義」です。「個々人の能力を高めるために教育をやる。立身出世のために教育が必要なんだ。だから、皆さん教育を受けなさい。学校を造りますので、教育を受けてください」という問題です。

学生は、頭に、明治時代といえば富国強兵、あるいは天皇のために尽くす、あるいは父親がすごく強い時代だから、それかなということで「1」、「2」、「3」を選ぶ学生が多いですが、実は、個人の能力のために教育をやるんだという、少し引っ掛けのような問題でした。ありがとうございました。

今やったのはなぜか。オンラインの話で、なぜ、今、私はこのような問題を出したのでしょうか。というのは、対面、オンラインで行っていることを、もちろん先生方に擬似的に体験してもらうためです。

本来、対面の場だと、今やったように、選んだ所へ立ってもらいます。挙手だと教えるにいくですし、立つためにはしっかり選ばなければいけないので、立つということをやってもらって、教職の学生ですので、実際に自分が授業をやるときは、学生に、「そういうふうに立たせるほうが、いろいろと都合がいいよ。こういうやり方があるんだよ」と教える。それをオンラインで教えるためにはどうするかと考えたときに、挙手機能を使うのが一番楽だなと考えたので、アンケートとかではなく、挙手機能で手を挙げてもらいました。

本来オンラインでは、「じゃあ、1番を選んだ人、もう1回挙げてください。理由は何ですか」と、こちらで3人とか5人とかを指名して、チャットで答えてもらいます。「2番の

人はどうですか」と、何人か選んで、チャットで答えてもらうという形でやっています。対面でやっている工夫をオンラインで教えたいということで、こういうやり方をやっていたということです。

以下、ほかのものも基本的には、対面の工夫をオンライン版にただけですので、オンライン特有の工夫というのはあまりないと思います。リアルタイムでの工夫になります。基本方針としては、オンデマンドではできないことをやる。授業を通して、授業方法を、こういう方法があるというのを教えたいということでやっていました。

ところで、授業の開始時に音楽を流していたのは、こういうのができるということを示したかったためです。今回はちょっとできなそうなのでやりませんでしたけど、毎回授業の最初に音楽を流していました。音声チェックも兼ねています。

あとは、今やっているように、パワーポイントの通常画面を提示して説明しています。というのは、すぐに文字を打ち込んだり修正したりできること、私のほうでミスを発見したら、「ちょっとごめん」と言って、すぐ書き直したりしていました。

「問い」、聞きたいこととかもパワーポイントで提示、あるいはチャットで聞く場合もありましたけど、声だけだと、どうしてもうまく発問が通じない、問いが学生に届かないので、文字でもなるべく示すようにしていました。

挙手機能の活用は、今やってもらったようなやり方です。また、途中で、「資料を読んでもください」と言って、「資料を読んでいる間は手を挙げている状態にしてください。読み終わったら手を下ろしてください」というのをやっていました。それも、普段の対面では、「資料を読んでいるときは、資料を手を持って読んでください。読み終わったら置いてください」というようにやっています。それをやることによって、今、どのぐらいの学生が授業中に読んでいたか分かります。そういうふうにして、今、生徒がどのぐらい読んでいるかを把握するやり方があるという方法を教えるためにやります。オンラインでも同じようなやり方をしました。

発音と解答の方法ですが、問いを出して、リアルタイムでも、「ちょっと3分間考えて、手元に書き出してください。ノートでも何でもいいので、書き出してください」と言って、黙っているということをやっています。そのあと指名で、当てるときはランダムに当てていました。

名簿を作っておいて、Excelでランダムに乱数の表示ができるので、ランダムにやって、10名の名前をチャットに貼り出して、「当たった人はチャットで答えてください」などという感じでやっています。そうすると、その場に居ない学生はもちろん答えないので、出欠チェックも兼ねていることにしていました。ただ、私のほうで誰を当てたかは、最初はチェックできていましたが、誰が答えなかったかを授業中にチェックするのはすごく大変だったので、途中からチェックはできませんでした。

解答の方法としては、チャットで文字で入力してもらいます。これはでも、どうしても時間がかかるのが難点ではあります。MaNaBoのボード(Board)でも同じです。ボードのほうは一覧で見やすいですが、スマホの学生には少し難しかったみたいです。

また、クイズの回答欄を使用しました。これは、全員に解答してほしい場合に使いました。配ってはいませんが、例えば、こういう問題があります。先ほどの「学生が9割間違える問題シリーズ」の中の最初の「問題1-1」で、「福澤諭吉の『学問のすゝめ』の冒頭の一文を完成させなさい」という問題を出して、「『天は人の上に人をつくらず』そのあとに言葉が続きます。どんな言葉が続いて一文が終わるでしょうか」と。これを、「MaNaBoの指定したクイズの場所に入力してください」と言って解答させたりします。

これは先生方もご存じだと思いますが、学生はこういう感じで、「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」という解答をする学生がほとんどですが、時々、「自分の上により良い自分を」とか、面白い解答をする学生が居ます。「天は人の下に人をつくらず、地の上のみに人をつくる」とか、いろいろな面白い解答があります。それらを紹介したあとで、「実はこうだよ」という感じでやりました。

ちなみに、書きませんが、「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」、「といへり」という4文字が入ります。「といへり」、つまり、そう言われているよというのが冒頭の一文ですので、これもほとんどの学生が間違えます。何でそういうふうになっているのかというので「学問のすゝめ」の話をしたりします。

そのあと『学問のすゝめ』では、学問を勧めるわけだから、学問をしようという話になりますが、この間の理屈はどんなものがあるか、福澤諭吉は、人間はみんな平等であると言ってますよ。だから、何だかんだ言って、勉強しようというふうに、どういうふうに論を持っていったのか。「この間の部分を福澤諭吉になって書き込んでみてください」みたいな感じのことをクイズに書き込ませたりしていました。

そして、幾つかをパワーポイントの画面に貼り付ける、学生の言葉を貼り付けるという感じのことをやっていました。そのときは、記入しさえすれば得点が入るという設定にしていました。クイズを使う場合は、互いの解答が見えないので、学生は気楽に解答できました。先ほどの面白い解答なども、ボードにしてしまうと、恐らく、間違えてはいけないということで、書けなかったのではないかと思います。それはチャットでも同じですが、お互いの解答を見られないような形にした場合に、クイズが使えるなと思いました。

というような、工夫というほどでもないですが、春学期はそのぐらいのことをやっていて、今までの話は、対面の授業で工夫していたことをオンラインになるべく移行して対面の話をするというものでしたけど、オンラインならではの工夫ではありませんでした。しかし、秋学期は、オンラインならではのことが少しだけできたかなと思います。

たとえばパドレット (Padlet) の使用です。これはFDのセミナーでもやっていました。私も以前使ったことが、自分が体験したことはありましたが、あらためて、こういうふうに使えらんだと思ったので、秋学期はこんな感じで、グループセッションで話し合いをさせたあと、「良かったものを一つ選んでおいてください。それをどこかに書き出しておいてください。そして、パドレットに貼り付けてください」ということをやりました。これは、パドレットに直接入力だと少し面倒くさいことになるので、先に文章を作っておくこととなります。ですので、こんな感じになります。

このパドレットはいろいろと役に立ちそうだなと思っています。私はパワーポイントがあまり好きじゃないのは、スライドが一つしか出ないからです。そうすると、前のスライドが見えないので、今まで何をやってきたかというのが、手元に資料がない場合は残りません。でも、パドレットの場合は、パワーポイントのスライドをぺたぺた貼っていくことができます。ですので、パワーポイントの昔の画面を残しつつ、次のスライドを映していくということが、これを使いながらできないかなと考えていますが、ただ、字はかなり小さくなるので、まだやってみたことはありません。

先ほどコメントしてくれた先生が居ましたが、突っ込み型授業というのを秋学期は1回やりました。1回というか、実際は15分ぐらいですが、「今から何々について話します。そのときに、全員、少なくとも二つはチャットで何らかのコメントをしてください。独り言でも突っ込みでもため口で構いませんので、何か言ってください。なるほどとか、知らなかったとか、すごいとか、訳分かんないとか、そんなのでいいから書いてください」と言って、話している最中に来たコメントについて、全部じゃないですけど、一言ずつ、「そうだね」と言いながら進めるというやり方をやったことがあります。

これだとオンラインでしかできないやり方ですし、学生も気楽に話に参加できるので、面白いかなと思っています。ただ、大人数の授業だとできないという気はします。私が秋学期に担当した教職実践演習はマックスで30人で、その当時は20人ぐらいの参加でしたので、だからこそできるというものかなという気はします。これは、実際の学校現場でも行われている方法です。

今やっているものとして、これは対面の授業ですが、対面で学生に模擬授業をさせています。そのとき授業を受けた学生による評価について、模擬授業が終わったときに、「じゃあ、聞いていた人は、どこが良かったか、あるいは改善点があれば、それを『○』とか『△』で書いたうえで、ボードに書いてください」というのをやっています。良かった点、悪かった点じゃないというのがポイントですが、改善点を書いてもらっていて、「良かった点を必ず二点以上書け」と言っています。

そうすると、授業をやった側も、あるいは聞いていた側＝受けた側も、お互いにコメントをすぐに見られるので、これは対面でオンラインを使うやり方としては、なかなか面白いやり方かなと思っています。対面が前提の話です。

また、自習室、「自習室」という言葉が合っていないかも分かりませんが、オンラインで授業をやったあとに、私がホストなわけですけど、学生にもうホスト権限を移してしまって、私はもう帰ります。けども、「そのあとずっと自由に話していていいよ」ということを1回やったことがあります。

これは、恐らく、学生がそのあと、学生の授業の点の打ち合わせをしたいと思ったので、ホストを移してしまって、ホストを1回移すと、もう自分は取り戻せないで、「あとは皆さん、原口を簡単に追い出すことができますよ」みたいな話をしてからやっていました。残った学生は自由に会話ができますけど、理論上は、恐らく、全員ずっと部屋に残れるのかと思います。ただ、その時は、あとで見に行ったら、そんなに長いことは話していま

んでした。そういうやり方もありました。

オンデマンド授業は、なるべく自分の作業量を少なくしたいという感じでやっていました。これは最初に言っておいたほうがよかったかなと思いましたが、どういうふうに授業をやったかという、オンデマンドの内容とリアルタイムの内容を交ぜてやっていました。

ですので、皆さんに配った資料の最後にありますけど、例えば、この線が引いてあった所がリアルタイムのもので、「まず、これをやってください」とやっておいたうえで、順序が前後するかもしれませんが、「本当は今回のリアルタイムでやる内容はオンデマンドで提示している内容の後の話でした」みたいな感じで、あとで解説を行います。あとで(本来なら先にやっておいてもらうはずの)オンデマンドの内容を見ておいてください、みたいな感じでやっていました。

オンデマンドでの方法について、最初にオンデマンドでやったときに、パワーポイントで文字だけで説明していましたが、やはり時間がかかるので、最初だけでした。ただ、そのときの工夫としては、考える時間を取りたい。ただ、文字だと考える時間がないので、あえてスライドに無駄な空白を、こうやって私のつぶやきとして入れておいて、これは配って実際に使ったものですけど、「進む前に自分の頭で考えてみてください」という問いかけをします。何枚も何枚もスライドに入れておいたうえで、「まず、考えるのが大事です。これが大事なんです」と言ったうえで、答えを見るとか、そういうことをやっていました。しかし文字だけで説明するのは作業量が多くて大変なので、もうやりませんでした。

また、録画してアップという方法が基本でしたけれども、もっと短くする必要があるなとは思っています。あとは、資料に問いを載せておいて、MaNaBoのクイズで解答させる。この場合は、選択肢ではなく、自分の考えです。それについてどう思うかを考えさせたりということをやっていました。読んだだけだと読んで終わってしまうので、考えたこともMaNaBoのボードに記入させます。ボードだとお互いが見れるので、そういうやり方をしました。

あとは、毎週小テストをやっていました。四つの選択肢の中に二つ正解があるという形で、2回まで解答可能というふうにやっています。つまり、1回間違えても、内容などを見返して、もう1回解答できるようなやり方をしました。これは、何でこういうふうにしたかという、以前、私がオンデマンドで授業を受けたときに、こういう授業というか、研修を受けたときにこういうやり方があったので、まねをしたという感じです。

また毎回の授業で、オンデマンドを含む感想を提出してもらっていました。毎回の感想を次の週にMaNaBoのフォーラム(Forum)に掲載するというのもやっていました。複数のクラスからですけど、10個ほど感想をまとめて、次の週に出していました。それに対して、全授業の中で必ず2回はコメントを書くことという課題も出していました。

そうすると、こんな感じになっています。ここのこれが学生の感想です。私が書き込んでいますが、それに対して読んだ学生が、「この感想についてこう思った」というのを書

くというものになっています。これはオンラインでしかできなかったことなので、少し工夫ができたかなと思います。ただ、このフォーラムはとても使いにくいので、もっと何とかならないかなとも思っています。

最終テストのほうは、もういいかなと思います。成績評価に関しては配ってはいませんが、毎回の感想として、小テストを合わせて11回分、11週分で57点。読書課題が、5点が2冊なので、たくさん読めば読むほど点が入ります。そして、ほかの学生へのコメントを、最低2回は必須として2点、毎回コメントをしている学生は10点ぐらい入ります。あとは、最終テストを20点ぐらいと、最終レポートを3点、「3点」にしていますが、「A」、「B」、「C」にして、自分の中で、これだと100点にならないので、大体私の頭の中で換算して、実際の成績を考えているといった感じでした。

反省とかいろいろありますけど、ペンタブの話だけ。ちょっと今、共有をする時間がないのですが、パソコンの画面に描いてやっていましたが、ペンタブという便利なものがあるというのを知ったので、それを使ったら、もっといろいろと学生の考えを書いて提示することができたと思っています。

あとは、読んでもらえば大体分かると思いますので、このぐらいにします。私からは以上です。もし何かあれば、お聞きいただければと思います。ありがとうございました。

司会：

原口先生、ありがとうございました。時間が18時10分までとなっています。残り時間が少なくなってきましたが、ここで質疑応答の時間を設けたいと思います。発表いただいた先生方に、何か質問あるいは意見などありましたら、オンラインで参加の先生は挙手の機能を使ってください。何かありましたら、お願いします。多田先生、原口先生の発表中から挙手のマークがついていますが、何か質問などありますでしょうか。

多田：

間違えて挙手ボタンを押したのですが、せっかくなので一つ質問します。結局、学生がどういうデバイスを持っているかというのが非常に気になります。千葉先生が、「2画面を表示させる」という話を言われたときに、それは、学生に対して2画面見えているということなのでしょうか。

千葉：

学生には私が共有している画面しか見えていないので、実は、一つの画面しか見えてないです。

多田：

そうですね。結構です。少し誤解して、2画面見えているようだったら、小さくて見にくいらうなと思いました。

それで、三浦先生にですが、「穴埋めをするときに、動画を見られる環境が整っていない学生も多いんじゃないか」と言われましたが、実際のところ、例えば、学生はゲームだったらやっているわけですね。見られる環境がないという話は、正直、私は、ないんじゃないかなと思っています。その辺、いかがでしょうか。

三浦：

どうなんですかね。これは、何か大学で調査とかされているのかもしれないですが、私も知りたいです。ただ、「できません」と言われたときに、500人ぐらいの学生の教育機会の環境に差があるというのは、ちょっとどうかなと思って、まだ踏み切れません。「自分に合ったいろんな資料を使ってください」と言うほうが、それぞれのやり方でできるので、一律に動画にして穴埋めさせると、それで大丈夫だったらやりたいですけど、まだ不安かなという感じがしています。

もし何か大学で調査をしていて、もう学生はスマホでも動画OKというのだったら、私もそれをやりたいのですが、やっぱり、「動画だと困る」という意見もちらほら聞くので、まだできないという感じです。

多田：

すいません、私ばかり話して申し訳ないです。私は春学期に、「キャリア・ディベロップメント」という国際教養学部の授業を担当しています。外部業者のほうは、「Zoomでやりたい」と言って、私は、「それは駄目だ」と、ずっと拮抗して何週間か過ぎました。その後、1人でもZoomを使えないようだったら導入しないということで、50人全員にアンケートを採ったら、「できる」という回答が出てしまって、結局、Zoomに移行しました。

意外と学生は、携帯であれ、リアルタイムかどうかはちょっと難しいですけど、動画を見られるデバイスを持っているのかなという印象を持ちました。取りあえず、私のほうからは以上です。

司会：

はい、ありがとうございました。それでは、あと1、2分ぐらいですけれども、何かありましたら、お願いします。

委員長：

3名の先生、発表をありがとうございます。いろいろとヒントがあったので、生かそうかと思います。千葉先生に聞きたいのですが、言語の授業の場合は、発音させることも話をさせることも大事だと思います。その学生同士で話をさせるとか、学生に自己紹介をさせるみたいなことはオンラインでやったのかというのが一点と、オンラインでやったのであれば、どうやってやったのかとか、その辺を聞かせてください。お願いします。

千葉：

はい。基本的に、一応、オンラインでの会話はさせました。例えば、全体が会うときに1人ずつ当てていくというのはかなり効率が悪いので、それはなるべくしませんでした。もし話すのであれば、ブレイクアウトルームを使って、個別に学生を分けて、その中で話してもらうという活動はしました。

先ほどの発表のときにも少し言いましたが、ある程度の枠とかをしっかりと使ったりしないと学生自体が話さなくなってしまうし、ブレイクアウトルームにすると、教員のほうが、学生がやっているかどうかというのが見られなくなってしまうので、そこが少し難点かなと思います。

ですので、ブレイクアウトにすると、話すグループと話さないグループというのがすごく顕著に分かれてしまって、ブレイクアウトを崩して戻ってきたときに、「じゃあ、何を話したの?」と言ったときに、「あんまり話してなかった」というグループが散見されたので、少し工夫が必要かなと思います。

あと、クイズ機能で音声吹き込ませるやつをやると、意外に学生は食い付きがよくて、自分の声を録音して、それをもう1回聞き直して提出させるというのは、多分、言語のクラスの中では、利用率が高いかなとは思っています。

委員長：

分かりました。ありがとうございます。それに関して一点なんですけど、先ほどの話にも絡みますが、受講している学生は、その音声課題を出したときに、全員録音できて出せたのでしょうか。録音というか、マイクとかの機能がちゃんとパソコンに備わっていることを確認してやったのか、確認せずに、もう見切り発車でできたのか。

千葉：

それは一年生のクラスだったので、一応、一年生はデバイスを持っているので、今のPCは、大体デバイスでマイクは付いているので、問題なくできましたが、例えば、三、四年生が入ってくるクラスでは、それはやっていなかったと思います。

委員長：

分かりました。ありがとうございます。

司会：

それでは、時間になりましたので、質疑応答の時間をこれで終わりにしたいと思います。発表いただきました、千葉先生、三浦先生、原口先生、どうもありがとうございました。

それでは、今回の発表を今後の授業づくりなどに生かしていただければと思います。それでは、今年度の経験交流会、これにて閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。